

2015年度(平成28年3月期) 第1四半期決算短信補足資料

—目次—

I.	連結業績ハイライト	1
II.	連結損益計算書及び連結包括利益計算書	2
III.	連結貸借対照表	6
IV.	四半期業績の推移	8
V.	主要な連結子会社の状況	8
VI.	開発状況表	9
VII.	主な開発品のプロフィール	15

2015年7月29日

大日本住友製薬株式会社

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料の数字は四捨五入で表示しております。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。

I. 連結業績ハイライト

1. 連結損益計算書

(億円)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減率%	2015年度 2Q累計 予想(注3)		増減率%	2015年度 通期予想(注3)		増減率%
売上高	897	981	9.3	(1,930)	1,975	10.8	(3,920)	4,010	8.0
売上原価	241	264	9.4	(510)	518	6.9	(1,020)	1,035	2.2
販売費及び一般管理費	570	673	18.2	(1,310)	1,347	14.3	(2,630)	2,705	9.6
販売費・一般管理費	418	472	13.1	(895)	922	8.8	(1,760)	1,810	3.1
研究開発費	152	201	32.2	(415)	425	28.1	(870)	895	25.5
営業利益	87	44	△ 48.9		110	△ 7.9		270	16.0
経常利益	96	47	△ 50.5		110	△ 13.5		265	13.6
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	58	59	3.2		80	△ 32.0		180	16.5

(注1) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(注2) 増減率は前年同期実績に対する増減率を記載しております。

(注3) 業績予想を修正しております。括弧内の数値は従来の予想値です。また増減率は、修正予想値の対前期比増減率です。

EBITDA(億円)	149	97	217	478
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	14.49	14.95	20.14	45.31
自己資本当期純利益率(ROE)	1.4%	1.3%	1.8%	3.9%

2. 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	88	54
投資活動によるキャッシュ・フロー	86	258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 57	△ 64
現金及び現金同等物の四半期末残高	850	1,478

3. 為替換算レート

(億円)

	2014年 4-6月 平均レート	2015年 4-6月 平均レート	2015年 6月末 レート	2015年度 想定レート	為替感応度(2015年度) (1円/USD 円安の影響)	
					売上高	営業利益
円/USD	102.2	121.4	122.4	120.4	16	
円/元	16.4	19.6	19.7	19.5	1	

(注) 2015年度1Qにおける円/USDおよび円/元為替変動の影響額は、前年同期比で売上高は75億円増加、営業利益は2億円減少となりました。

4. 設備投資の状況

(億円)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	2015年度 通期予想	増減額
設備投資額	19	10	△ 9	115	18

(注) 有形固定資産とソフトウェアの設備投資額を記載しております。

2015年度継続の主な設備投資

大阪研究所研究2号館耐震・改修工事:16億円(総予算16億円、2015年11月完了予定)

5. 減価償却費・のれん償却額

(億円)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	2015年度 通期予想	増減額
有形固定資産償却費	19	19	1	74	△ 4
無形固定資産償却費	15	10	△ 5	51	10
のれん償却額	13	15	2	65	11

II. 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

1. 連結損益計算書

(億円)

	2014年度	2015年度		
	1Q実績	1Q実績	増減額	増減率%
売上高	897	981	84	9.3
海外売上高	425	498	73	17.1
海外売上高比率	47.4%	50.7%		
売上原価	241	264	23	9.4
売上原価率	26.8%	26.9%		
売上総利益	657	718	61	9.3
販売費及び一般管理費	570	673	104	18.2
人件費	171	196	26	15.0
広告宣伝費	69	95	27	38.5
販売促進費	29	29	△ 0	△ 0.4
その他	149	152	3	1.8
販売費・一般管理費	418	472	55	13.1
研究開発費	152	201	49	32.2
研究開発費売上高比率	17.0%	20.5%		
営業利益	87	44	△ 43	△ 48.9
営業外収益	13	9	△ 5	
営業外費用	5	6	1	
経常利益	96	47	△ 48	△ 50.5
特別利益	17	60	43	
投資有価証券売却益	—	60	60	
受取損害賠償金	17	—	△ 17	
特別損失	1	2	0	
減損損失	—	2	2	
事業構造改善費用	1	—	△ 1	
税金等調整前四半期純利益	111	106	△ 6	△ 5.0
法人税等	54	46	△ 7	
四半期純利益	58	59	2	3.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	58	59	2	3.2

日本セグメント +7
北米セグメント +67 (うち為替影響+67)
中国セグメント +3 (うち為替影響+7)

北米での増加および為替の影響

北米での臨床開発費用増
および為替の影響

上場株式の売却(北米)

無形資産の減損(北米)

(注1) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(注2) 海外売上高には医薬品以外の輸出売上高も含めております。

2. 連結包括利益計算書

(億円)

	2014年度	2015年度
	1Q実績	1Q実績
四半期純利益	58	59
その他の包括利益	△ 42	78
その他有価証券評価差額金	△ 5	17
繰延ヘッジ損益	△ 0	0
為替換算調整勘定	△ 38	59
退職給付に係る調整額	1	1
四半期包括利益	15	137

為替レート(円/\$):
'14/3 '14/6 '15/3 '15/6
102.9 → 101.4 120.2 → 122.4
(△1.5) (+2.3)

3. セグメント情報 (2015年度1Q実績)

(億円)

	医薬品事業					その他 (注1)	連結
	日本	北米	中国	海外 その他	合計		
売上高	382	423	46	28	878	103	981
外部顧客向け	382	423	46	28	878	103	981
内部取引	0	—	—	—	0	△ 0	—
売上原価	114	39	10	18	181	83	264
売上総利益	268	384	36	10	697	20	718
販売費・一般管理費	142	289	19	7	457	16	472
うちのれん・特許権償却等	—	19	—	—	19	—	19
セグメント利益	126	95	16	3	241	5	246
研究開発費(注2)	199					2	201
営業利益	42					3	44

セグメント情報 (2014年度1Q実績)

(億円)

	医薬品事業					その他 (注1)	連結
	日本	北米	中国	海外 その他	合計		
売上高	375	356	42	25	798	99	897
外部顧客向け	375	356	42	25	798	99	897
内部取引	—	—	—	—	—	—	—
売上原価	112	30	6	14	162	78	241
売上総利益	263	326	36	10	636	21	657
販売費・一般管理費	144	237	16	5	402	15	418
うちのれん・特許権償却等	—	26	—	—	26	—	26
セグメント利益	119	89	20	5	233	6	239
研究開発費(注2)	150					2	152
営業利益	83					4	87

セグメント情報 (2015年度通期予想) (注3)

(億円)

	医薬品事業					その他 (注1)	連結
	日本	北米	中国	海外 その他	合計		
売上高	1,568	1,748	197	74	3,587	423	4,010
外部顧客向け	1,567	1,748	197	74	3,586	424	4,010
内部取引	1	—	—	—	1	△ 1	—
売上原価	480	139	39	43	701	334	1,035
売上総利益	1,088	1,609	158	31	2,886	89	2,975
販売費・一般管理費	581	1,051	87	25	1,744	66	1,810
うちのれん・特許権償却等	—	78	—	—	78	—	78
セグメント利益	507	558	71	6	1,142	23	1,165
研究開発費(注2)	885					10	895
営業利益	257					13	270

(注1)セグメント間取引消去を含んでおります。

(注2)医薬品の研究開発費は、グローバルに管理しているため各セグメントに配分しておりません。

(注3)業績予想を修正しております。

4. 医薬セグメント別売上高 (外部顧客向け)

(億円)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
日 本	375	382	7	1.8	787	48.5	1,567
北 米	356	423	67	18.8	(800) 840	52.9	(1,668) 1,748
中 国	42	46	3	8.1	(96) 101	47.6	(187) 197
海 外 そ の 他	25	28	3	12.4	36	76.5	74

(注) 一部製品の売上予想を修正しています。括弧内の数値は、従来の予想値です。また、進捗率は従来予想値に対する率です。

5. 主要製品の販売状況

日本(戦略品)

(リポート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
ア イ ミ ク ス [高血圧症治療剤]'12.12発売	26	35	9	35.8	78	44.8	175
ア バ プ ロ [高血圧症治療剤]	28	27	△1	△3.0	58	46.4	115
ロ ナ セ ン [非定型抗精神病薬]	23	31	8	32.4	64	48.3	130
ト レ リ ー フ [パーキンソン病治療剤]	24	33	8	35.3	70	46.6	152

日本(その他の品目)

シ ュ ア ポ ス ト [速効型インスリン分泌促進剤]'11.5発売	5	8	4	75.1	17	48.1	37
ア ム ビ ゾ ー ム [深在性真菌症治療剤]	9	10	1	8.8	24	41.2	49
リ プ レ ガ ル [ファブリー病治療剤]	24	28	4	15.3	54	51.3	110
メ ト グ ル コ [ピグアナイド系経口血糖降下剤]	36	49	12	33.7	80	61.0	140
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	51	42	△9	△17.4	89	47.4	170
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	27	22	△5	△18.0	44	50.6	83
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	27	23	△4	△13.6	47	49.1	91
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	20	16	△4	△18.9	36	45.7	68
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	9	6	△3	△29.2	14	45.9	32

北米

(億円)

品目 [薬効]	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
ラ ツ ー ダ [非定型抗精神病薬]'11.2発売	184	265	81	44.0	(539) 565	49.1	(1,150) 1,204
ア プ テ イ オ ム [抗てんかん剤]'14.4発売	9	15	7	78.5	(22) 28	69.0	(62) 70
ブ ロ バ ナ [長時間作用型β作動薬]	47	70	23	48.0	(118) 124	59.5	(251) 262
シ ク レ ソ ニ ド ※ [コルチステロイド吸入剤・点鼻スプレー]	16	21	5	28.5	(31) 32	66.3	(60) 63
ゾ ペ ネ ッ ク ス [短時間作用型β作動薬]	24	16	△ 8	△ 33.7	(21) 22	76.7	(25) 26
ル ネ ス タ [催眠鎮静剤]	47	13	△ 34	△ 72.6	(21) 22	62.1	(37) 39
工業所有権収入	13	11	△ 1	△ 10.8	(22) 23	51.5	(44) 46

中国

(億円)

品目	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
メ ロ ペ ン	35	38	3	7.8	(79) 84	47.7	(153) 161

海外その他

(億円)

品目	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
メ ロ ペ ン (輸 出)	10	17	7	76.1	20	85.3	43
工業所有権収入	1	0	△ 1	△ 84.7	3	5.5	10

(参考)北米品目売上高(現地通貨ベース)

(百万ドル)

品目	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	増減額	増減率%	2015年度 2Q累計予想	対2Q予想 進捗率%	2015年度 通期予想
ラ ツ ー ダ	180	218	38	21.2	469	46.5	1,000
ア プ テ イ オ ム	8	13	4	50.2	(19) 23	65.8	(54) 58
ブ ロ バ ナ	46	58	11	24.5	103	56.1	218
シ ク レ ソ ニ ド ※	16	17	1	8.1	26	65.1	52
ゾ ペ ネ ッ ク ス	24	13	△ 11	△ 44.2	18	73.6	22
ル ネ ス タ	46	11	△ 36	△ 76.9	18	65.1	32
工業所有権収入	12	9	△ 3	△ 25.0	19	49.1	38

※アルベスコ、オムナリス、ゼトナのシクレソニド製剤3製品合計

(注) 一部製品の売上予想を修正しています。括弧内の数値は、従来の予想値です。また、進捗率は従来予想値に対する率です。

Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	2015年 3月末	2015年 6月末	対前期末 増減額
[資 産 の 部]	7,116	7,273	157
(流 動 資 産)	4,017	4,170	153
現 金 及 び 預 金	306	215	△ 90
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	1,031	1,069	38
有 価 証 券	1,113	1,309	196
た な 卸 資 産	624	638	15
繰 延 税 金 資 産	389	429	41
短 期 貸 付 金	491	429	△ 62
そ の 他	66	80	14
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 0	1
(固 定 資 産)	3,099	3,104	5
有形固定資産	652	641	△ 10
建 物 及 び 構 築 物	414	409	△ 4
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	91	89	△ 1
土 地	63	63	0
建 設 仮 勘 定	12	11	△ 1
そ の 他	72	68	△ 4
無形固定資産	1,739	1,744	5
の れ ん	881	882	1
仕 掛 研 究 開 発	645	654	9
そ の 他	213	208	△ 5
投資その他の資産	709	719	10
投 資 有 価 証 券	582	610	28
退 職 給 付 に 係 る 資 産	19	20	1
繰 延 税 金 資 産	48	33	△ 14
そ の 他	60	56	△ 4
貸 倒 引 当 金	△ 0	△ 0	0
資産 合計	7,116	7,273	157

債券、譲渡性預金の増加

償却 △15
為替 +17為替 +12
減損 △ 2

売上債権滞留月数

3.33ヶ月 3.27ヶ月

[負債純資産の部]

(億円)

科 目	2015年 3月末	2015年 6月末	対前期末 増減額	
[負 債 の 部]	2,606	2,691	85	
(流 動 負 債)	1,568	1,621	52	
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	125	138	13	
1 年 内 償 還 予 定 の 社 債	300	300	—	
1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金	65	37	△ 29	有利子負債合計 865 → 837
未 払 法 人 税 等	33	71	39	
賞 与 引 当 金	94	58	△ 37	
返 品 調 整 引 当 金	86	89	3	
売 上 割 戻 引 当 金	364	438	75	← ラッダ販売増、為替影響
未 払 金	353	302	△ 51	
そ の 他	149	188	39	
(固 定 負 債)	1,037	1,070	33	
社 債	300	300	—	
長 期 借 入 金	200	200	—	
繰 延 税 金 負 債	174	189	15	
退 職 給 付 に 係 る 負 債	153	154	1	
そ の 他	211	227	16	
[純 資 産 の 部]	4,510	4,582	72	
(株 主 資 本)	3,643	3,638	△ 5	
資 本 金	224	224	—	
資 本 剰 余 金	159	159	—	
利 益 剰 余 金	3,267	3,262	△ 5	
自 己 株 式	△ 7	△ 7	△ 0	
(その他の包括利益累計額)	867	944	77	
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	231	248	17	
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	0	0	0	
為 替 換 算 調 整 勘 定	682	739	58	← 為替レート(円/\$): '15/3 '15/6 120.2 → 122.4
退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	△ 45	△ 44	1	
負債純資産合計	7,116	7,273	157	

IV. 四半期業績の推移

(億円)

	2014年度				2015年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	897	885	1,008	922	981
売上原価	241	244	266	261	264
販売費及び一般管理費	570	609	633	656	673
販売費・一般管理費	418	430	453	455	472
研究開発費	152	180	180	201	201
営業利益	87	33	109	5	44
営業外収益	13	10	5	14	9
営業外費用	5	11	16	10	6
経常利益	96	32	98	8	47
特別利益	17	83	77	0	60
特別損失	1	5	53	14	2
税金等調整前四半期純利益	111	109	122	△ 5	106
親会社株主に帰属する 四半期純利益	58	60	72	△ 35	59

(注)売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

V. 主要な連結子会社の状況 (2015年6月30日現在)

国内	DSP五協 フード&ケミカル 株式会社	DSファーマ アニマルヘルス 株式会社	DSファーマ バイオメディカル 株式会社
設立年月	1947年10月	2010年7月	1998年6月
持株比率	100%	100%	100%
従業員数	163名	103名	64名
主な事業内容	食品素材・食品添加物および化学製品材料等の製造、販売	動物用医薬品等の製造、販売	診断薬等の製造、販売

海外	サノビオン・ ファーマシューティ カルズ・インク	ボストン・ バイオメディカル・ インク	住友製薬(蘇州) 有限公司
設立年月	1984年1月	2006年11月	2003年12月
持株比率	100%	100%	100%
従業員数	1,599名	89名	711名
主な事業内容	医療用医薬品の製造、販売	がん領域の研究開発	医療用医薬品の製造、販売

参考)従業員数

(名)

	2014年3月31日	2015年3月31日	2015年6月30日
連結	7,015	6,868	6,872
個別	4,331	4,126	4,133
日本MR			
(マネージャー除く)	1,400	1,350	1,350
(マネージャー含む)	1,600	1,530	1,530
米国MR			
(マネージャー除く)	710	700	680
(マネージャー含む)	810	800	780
中国MR			
(マネージャー除く)	390	370	350
(マネージャー含む)	480	470	450

VI. 開発状況表(2015年7月29日現在)

■ 申請段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
申請中	アムルビシン 塩酸塩 注射剤	アムルビシン 塩酸塩 amrubicin hydrochloride	小細胞肺がん	自社	中国	2012/8 申請 国内販売名: カルセド
	ブロナンセリン 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症	自社	中国	2013/9 申請 国内販売名: ロナセン
	アプティオム 経口剤	eslicarbazepine acetate	(新効能) てんかん (単剤)	BIAL 社	米国・ カナダ	2014/10 申請 既承認適応症: てんかん(併用 療法)

■ 第Ⅲ相開発段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第Ⅲ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症	自社	日本	
	SM-13496 経口剤	ルラシドン 塩酸塩 lurasidone hydrochloride	統合失調症	自社	日本	既承認国:米 国・カナダ・欧 州・オーストラ リア (第Ⅲ相試験終 了、今後の開 発方針につい て検討中)
			双極Ⅰ型障害 うつ			既承認国:米 国・カナダ
			双極性障害 メンテナンス			
			統合失調症		中国	既承認国:米 国・カナダ・欧 州・オーストラ リア
ラツーダ 経口剤		(新効能) 双極性障害 メンテナンス		米国・ 欧州等		

■ 第Ⅲ相開発段階の品目(続き)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第Ⅲ相	BBI608 経口剤	未定	結腸直腸がん (単剤)	自社	米国・ カナダ・ 日本等	国際共同治験 (2014/5 新規 患者登録およ び登録済みの 患者への投与 を中止)
			胃または 食道胃接合部 腺がん (併用)		米国・ カナダ・ 日本等	国際共同治験
	SEP-225289 経口剤	dasotraline	成人注意欠如・ 多動症(ADHD)	自社	米国	
	SUN-101 吸入剤	グリコピロニウム 臭化物 glycopyrrolate bromide	慢性閉塞性肺 疾患(COPD)	自社	米国	旧 Elevation 社 由来
	ロナセン 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	(小児用量) 統合失調症	自社	日本	日東電工(株)と の共同開発 既存製剤: 経 口剤
	ロナセン 経皮吸収型 製剤		(新剤形: 経皮 吸収型製剤) 統合失調症			
トレリーフ 経口剤	ゾニサミド zonisamide	(新効能) レビー小体型認 知症(DLB)に伴 うパーキンソニズム	自社	日本		

■ 第Ⅱ/Ⅲ相開発段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第Ⅱ/Ⅲ相	EPI-743 経口剤	バチキノン vatiquinone	リー脳症	Edison 社	日本	第Ⅱ/Ⅲ相試 験終了、今後 の開発方針に ついて検討中
	SEP-225289 経口剤	dasotraline	小児注意欠如・ 多動症(ADHD) 過食性障害 (BED)	自社	米国	

■ 第Ⅱ相開発段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第Ⅱ相	BBI608 経口剤	未定	結腸直腸がん (併用)	自社	米国・ カナダ	
	DSP-1747 経口剤	obeticholic acid	非アルコール性 脂肪肝炎 (NASH)	Intercept 社	日本	
	DSP-6952 経口剤	未定	便秘型 IBS、 慢性便秘	自社	日本	
	BBI503 経口剤	未定	腎細胞がん、 尿路上皮がん (単剤)	自社	カナダ	
			肝細胞がん、 胆管がん (単剤)			
			消化管間質 腫瘍 (単剤)			
			卵巣がん (単剤)		米国	
SB623 注射剤	未定	慢性期脳梗塞	SanBio 社	米国	SanBio 社との 共同開発	
EPI-589 経口剤	未定	パーキンソン病	Edison 社	米国	Edison 社が 試験実施	
		筋萎縮性側索 硬化症(ALS)				

■ 第 I / II 相開発段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第 I / II 相	BBI608 経口剤	未定	固形がん (併用)	自社	米国・ カナダ	第 II 相段階: 卵巣がん、乳がん、非小細胞肺がん、メラノーマ等
			悪性胸膜中皮腫 (併用)		日本	第 II 相段階
			肝細胞がん (併用)		米国	
			膠芽腫 (併用)		カナダ	
			固形がん (併用)		米国	
	BBI503 経口剤	未定	固形がん (単剤)	自社	米国・ カナダ	第 II 相段階: 結腸直腸がん、頭頸部がん、卵巣がん等
			肝細胞がん (併用)		米国	
			固形がん (併用)			
	WT4869 注射剤	未定	骨髄異形成 症候群	中外製薬(株) との共同 研究	日本	2013/4~ 当社独自開発
	DSP-7888 注射剤	未定	骨髄異形成 症候群	自社	日本	

■ 第 I 相開発段階の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第 I 相	WT4869 注射剤	未定	固形がん	中外製薬(株) との共同 研究	日本	2013/4~ 当社独自開発
	WT2725 注射剤	未定	固形がん、 血液がん	中外製薬(株) との共同 研究	米国	2013/4~ 当社独自開発
			固形がん		日本	

■ 第I相開発段階の品目(続き)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	国/地域	備考
第I相	DSP-2230 経口剤	未定	神経障害性 疼痛	自社	英国・ 米国	
	SEP-363856 経口剤	未定	統合失調症	自社	米国	
	BBI608 経口剤	未定	消化器がん (併用)	自社	米国・ カナダ	
			膵がん (併用)		米国	
			血液がん (単剤・併用)			
			肝細胞がん (併用)		日本	
	DSP-3748 経口剤	未定	統合失調症に伴 う認知機能障害	自社	米国	
	BBI503 経口剤	未定	固形がん (単剤)、 肝細胞がん (併用)	自社	日本	
	BBI608+BBI503 経口剤	—	固形がん (併用)	自社	米国	
DSP-7888 注射剤	未定	固形がん、 血液がん	自社	米国		

【2015年5月 2014年度決算発表時点からの主な変更点】

EPI-743(リー脳症)

日本:第II/III相試験終了、日本での今後の開発方針について検討中

SEP-225289(過食性障害)

米国:第II/III相に新規掲載

EPI-589(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症)

米国:第II相に新規掲載

BBI608(悪性胸膜中皮腫/併用)

日本:第I/II相の第II相段階に移行

BBI608(固形がん/併用)

米国:第I/II相に新規掲載

BBI503(固形がん/併用)

米国:第I/II相に新規掲載

DSP-7888(固形がん・血液がん)

米国:第I相に新規掲載

■ 導出品の開発状況

一般名/コード名 (国内販売名)	予定適応症	開発状況
vosaroxin AG-7352	がん	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス 同社が2014年10月、欧米等で第Ⅲ相試験を完了(同社開発コード:SNS-595)
アムルビシン 塩酸塩 (カルセド)	小細胞肺癌	2005年6月、Celgene社(旧 Pharmion社)に欧米での開発・販売 権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を完了
ドロキシドパ (ドプス)	神経原性起立性 低血圧・ 透析時の低血圧・ 線維筋痛症	2006年5月、Lundbeck社(旧 Chelsea社)に日本、中国、韓国、 台湾を除く全世界の開発・販売権をライセンス 2014年2月、同社が米国で神経原性起立性低血圧の効能で承認 を取得し、同年9月、米国で発売(販売名:NORTHERA™) 線維筋痛症に対する第Ⅱ相試験および透析時の低血圧に対する 第Ⅱ相試験を完了
ルラシドン塩酸塩 SM-13496	統合失調症 双極性障害	2011年3月、英国を除く欧州について、武田薬品工業(株)と共同開 発・独占的販売契約を締結 2012年9月、同社が欧州で申請(統合失調症) 2013年8月、同社がスイスで承認取得(統合失調症) 2013年8月、台湾について、生達化学製薬に販売権をライセン ス、同社が同年10月に台湾で申請(統合失調症) 2014年1月、第一三共(株)に南米4か国を対象に販売権またはオ プション権をライセンス 2014年3月、武田薬品工業(株)が欧州で承認取得(統合失調症) 2014年12月、武田薬品工業(株)がロシアおよびトルコで申請(統合 失調症) 2014年12月、第一三共(株)がベネズエラで申請(統合失調症) 2015年1月、DKSH Thailandとタイ、香港、シンガポールを対象に 流通販売契約を締結。各国のDKSHがタイ(2014年11月)、香港 (2014年12月)、シンガポール(2015年4月)で申請(統合失調症) 2015年5月、武田薬品工業株式会社との欧州における共同開発・ 独占的販売契約が解消されることになり、権利返還等の具体的条 件に関する協議を開始
SMP-986	夜間頻尿	2013年3月、日本新薬(株)に日本を対象とした開発・販売権をライ センス 同社が国内で第Ⅱ相試験終了(同社開発コード:NS-986)

【2015年5月 2014年度決算発表時点からの主な変更点】

なし

VII. 主な開発品のプロフィール(2015年7月29日現在)

アプティオム(eslicarbazepine acetate) 抗てんかん剤

- ・ BIAL 社からの導入品
- ・ 本剤は、電位依存性ナトリウムチャネル阻害薬であり、1日1回服用で、粉砕しても空腹時でも服用することができる。FDA(米国食品医薬品局)より、米国麻薬取締局の審査が必要となる「controlled substance(規制薬物)」には指定されていない。
- ・ 本剤は、Sunovion 社が、BIAL 社と共同で実施した3つのグローバル臨床試験に基づき、米国において2013年11月に部分てんかん発作の併用療法を対象として承認を取得し、2014年4月に「APTIOМ®」として米国で発売した。これらの臨床試験は、1~3種類の抗てんかん薬で十分にコントロールできていない部分てんかん発作の患者1,400人以上が参加した、プラセボ対照無作為二重盲検試験である。カナダでは2014年7月に部分てんかん発作の併用療法を対象として承認を取得した。
- ・ 開発段階: 単剤 2014年10月申請(米国・カナダ)

ラツォダ(ルラシドン塩酸塩) 非定型抗精神病薬

- ・ 自社開発品
 - ・ 本剤は、独自の化学構造を有する非定型抗精神病薬であり、ドーパミン-2、セロトニン-2A、セロトニン-7受容体に親和性を示し、アンタゴニストとして作用する。セロトニン-1A受容体にはパーシャルアゴニストとして作用する。また、ヒスタミンとムスカリン受容体に対してはほとんど親和性を示さない。
 - ・ 本剤は、成人の統合失調症患者を対象にした4つの6週間投与の二重盲検試験において、プラセボに対して有意に高い改善を示した。また、本剤の忍容性と安全性は、5つの臨床試験により確認された。米国で2010年10月にFDA(米国食品医薬品局)より統合失調症に対する販売許可を取得し、Sunovion 社が、2011年2月に「LATUDA®」として米国で発売した。統合失調症治療剤として、2012年6月にカナダ、2013年8月にスイス、2014年3月に欧州およびオーストラリアで承認された。
- 双極Ⅰ型障害うつとの効能に関しては、米国で、2013年6月にFDAより、非定型抗精神病薬として初めて、成人の双極Ⅰ型障害うつに対する単剤療法ならびにリチウムまたはバルプロ酸との併用療法の2つの適応追加の承認を取得した。カナダでは、2014年3月に承認を取得した。

- ・ 開発段階:

開発段階	予定適応症	開発地域	提携先
申請中	統合失調症	ロシア・トルコ	武田薬品工業*1
	統合失調症	台湾	生達化学製薬
	統合失調症	タイ・香港・シンガポール	DKSH
	統合失調症	ベネズエラ	第一三共
フェーズⅢ	統合失調症	日本*2・中国	自社
	双極Ⅰ型障害うつ、双極性障害メンテナンス	日本	自社
	双極Ⅰ型障害うつ	欧州	武田薬品工業*1
	双極性障害メンテナンス	米国・欧州等	自社

*1 武田薬品工業株式会社との欧州における共同開発・独占的販売契約が解消されることになり、権利返還等の具体的条件に関する協議を開始

*2 第Ⅲ相試験終了、今後の開発方針について検討中

ラニレスタット(AS-3201) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。ヒト神経内への本剤の移行、用量依存的な神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積阻害が臨床試験で確認されており、これまでに得られた試験成績から本剤による神経機能および症状の改善効果が期待される。
- ・ 開発段階: フェーズⅢ(国内)

BBI608 抗がん剤

- ・ 自社開発品(Boston Biomedical 社)
- ・ 本剤は、Stat3 をターゲットとし、がん幹細胞の維持に重要な遺伝子を阻害する新しいメカニズムの低分子経口剤である。がん幹細胞に関わる経路を阻害することにより、がん治療の課題である治療抵抗性、再発および転移に対する新たな治療選択肢となることが期待される。
- ・ 本剤は、非臨床試験において、Stat3 経路、Nanog 経路およびβ-カテニン経路を抑制することが示されている。
- ・ 開発段階:

開発段階	予定適応症	開発地域	併用薬	試験番号
フェーズⅢ	結腸直腸がん(単剤)*1	米国・カナダ・日本等	-	CO.23
	胃または食道胃接合部腺がん(併用)	米国・カナダ・日本等	パクリタキセル	336 (BRIGHTER)
フェーズⅡ	結腸直腸がん(併用)	米国・カナダ	セツキシマブ、パニツムマブまたはカペシタビン	224
フェーズⅠ/Ⅱ	固形がん*2(併用)	米国・カナダ	パクリタキセル	201
	悪性胸膜中皮腫(併用)	日本	シスプラチンおよびペメトレキセド	D8807005
	肝細胞がん(併用)	米国	ソラフェニブ	HCC-103
	膠芽腫(併用)	カナダ	テモゾロミド	251
	固形がん(併用)	米国	イピリムマブ、ペンブロリズマブまたはニボルマブ	201CIT
フェーズⅠ	消化器がん(併用)	米国・カナダ	FOLFOX*3、FOLFOX*3 およびベバシズマブ、CAPOX*3、FOLFIRI*3、FOLFIRI*3 およびベバシズマブ、またはレゴラフェニブ	246
	膵がん(併用)	米国	ゲムシタビンおよびナブパクリタキセル	118
	血液がん(単剤・併用)	米国	デキサメサゾン	103HEME
	肝細胞がん(併用)	日本	ソラフェニブ	D8808001
	固形がん(併用)	米国	BBI503	401-101

*1 2014年5月 新規患者登録および登録済みの患者への投与を中止

*2 フェーズⅡ段階: 卵巣がん、乳がん、非小細胞肺癌、メラノーマ等

*3 FOLFOX: フルオロウラシル、ロイコボリン、オキサリプラチンの併用

CAPOX: カペシタビン、オキサリプラチンの併用

FOLFIRI: フルオロウラシル、ロイコボリン、イリノテカンの併用

dasotraline (SEP-225289) 注意欠如・多動症(ADHD)・過食性障害(BED)治療剤

- ・ 自社開発品(Sunovion 社)
- ・ 本剤は、ドーパミンおよびノルエピネフリンの再取り込みを阻害する新規のDNRIである。本剤は、1日1回投与の長時間作用型の製剤であり、安定した血中濃度が一日中持続するため、高い有効性を長時間維持することが期待される。
- ・ 開発段階:

成人注意欠如・多動症(ADHD): フェーズⅢ(米国)

小児注意欠如・多動症(ADHD): フェーズⅡ/Ⅲ(米国)

過食性障害(BED): フェーズⅡ/Ⅲ(米国)

グリコピロニウム臭化物(SUN-101) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療剤

- ・ 自社開発品(Sunovion社)
- ・ 本剤は、長時間作用性ムスカリン受容体拮抗薬(LAMA)の気管支拡張剤であり、軽量で携帯性に優れ、かつ約2分で投与可能な電子振動膜型ネブライザーシステム「eFlow[®]」を用いる吸入液剤である。現在、米国においてネブライザーを使用して投与するLAMAは承認されておらず、本剤は、COPDに対して最も開発段階の進んだ、ネブライザーを用いて投与するLAMAである。
- ・ 開発段階:フェーズⅢ(米国)

パチキノン(EPI-743) ミトコンドリア病治療剤

- ・ Edison社からの導入品
- ・ 本剤は、ミトコンドリアの機能低下により発生する酸化ストレスを除去することにより効果を発揮し、有効な治療薬の存在しないリー脳症をはじめとするミトコンドリア病に対する世界初の治療薬になることが期待される。
- ・ 開発段階:リー脳症を対象にフェーズⅡ/Ⅲ(国内)終了、今後の開発方針について検討中

obeticholic acid(DSP-1747) 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)・原発性胆汁性肝硬変(PBC)治療剤

- ・ Intercept社からの導入品(同社開発コード:INT-747)
- ・ 本剤は、胆汁酸をリガンドとする核内レセプターであるFXR(Farnesoid X receptor)への作動薬であり、肝臓内での胆汁酸増加に伴う肝機能障害や肝線維化に対する治療効果が期待される。
- ・ 開発段階:NASHを対象にフェーズⅡ(国内)。PBCのフェーズⅡ開始については検討中。

DSP-6952 便秘型IBS・慢性便秘治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、セロトニン-4受容体に対する高い親和性とパーシャルアゴニスト作用を有する消化管運動促進剤である。生理的な排便を促すことにより、便秘型過敏性腸症候群および慢性便秘に対する治療効果が期待される。
- ・ 開発段階:フェーズⅡ(国内)

BBI503 抗がん剤

- ・ 自社開発品(Boston Biomedical社)
- ・ 本剤は、キナーゼをターゲットとすることで、Nanog等のがん幹細胞に関わる経路を阻害するよう設計された新しいメカニズムの低分子経口剤である。がん幹細胞に関わる経路を阻害することにより、がん治療の課題である治療抵抗性、再発および転移に対する新たな治療選択肢となることが期待される。
- ・ 本剤は、非臨床試験において複数のキナーゼを阻害することが示されている。
- ・ 開発段階:

開発段階	予定適応症	開発地域	併用薬	試験番号
フェーズⅡ	腎細胞がん、尿路上皮がん(単剤)	カナダ	-	205a
	肝細胞がん、胆管がん(単剤)	カナダ	-	205b
	消化管間質腫瘍(単剤)	カナダ	-	205c
	卵巣がん(単剤)	米国	-	205GYN-M
フェーズⅠ/Ⅱ	固形がん*(単剤)	米国・カナダ	-	101
	肝細胞がん(併用)	米国	ソラフェニブ	HCC-103
	固形がん(併用)	米国	カペシタビン、ドキソルビシン、ニボルマブ、ペンブロリズマブ、パクリタキセルまたはスニチニブ	201
フェーズⅠ	固形がん(単剤)、肝細胞がん(併用)	日本	ソラフェニブ	DA101003
	固形がん(併用)	米国	BBI608	401-101

* フェーズⅡ段階:結腸直腸がん、頭頸部がん、卵巣がん等

SB623 脳梗塞治療剤

- ・ SanBio 社からの導入品、同社との共同開発
- ・ 本剤は、健常人の骨髄液を加工、培養して作成された他家細胞医薬品である。中枢神経細胞の再生を促すことによって、有効な治療のない慢性期脳梗塞への効果が期待される。また、他家由来細胞を利用して同一の製品を大量に作製できることから、自家由来細胞を用いる治療で必要となる医療機関等における個別の細胞調製などの処置が不要であり、多くの患者さんに均一な医薬品を提供することが可能となる。これまでの非臨床試験および臨床試験の結果では、慢性期脳梗塞に対して良好な効果を示すとともに、本剤に起因する重篤な有害事象は認められていない。
- ・ 開発段階:フェーズⅡ(米国)

EPI-589 神経変性疾患治療剤

- ・ Edison 社からの導入品
- ・ 本剤は、ミトコンドリアの機能低下により発生する酸化ストレスを除去することにより効果を発揮し、酸化ストレスに起因する神経変性疾患への適応が期待される。
- ・ 開発段階:
パーキンソン病:フェーズⅡ(米国)(Edison社が実施中)
筋萎縮性側索硬化症(ALS):フェーズⅡ(米国)(Edison社が実施中)

WT4869 抗がん剤

- ・ 自社開発品(中外製薬㈱との共同研究)
- ・ 本剤は、WT1(Wilms' tumor gene 1)タンパク由来の治療用がんペプチドワクチンである。本剤の投与により誘導されるWT1特異的な細胞傷害性T細胞(CTL)が、WT1タンパクを発現するがん細胞を攻撃することで、種々の血液がんおよび固形がんに対して治療効果を発揮することが期待される。
- ・ 開発段階:
骨髄異形成症候群(MDS):フェーズⅠ/Ⅱ(国内)
固形がん:フェーズⅠ(国内)

DSP-7888 抗がん剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、WT1(Wilms' tumor gene 1)タンパク由来の治療用がんペプチドワクチンであり、WT1特異的な細胞傷害性T細胞(CTL)を誘導するペプチドおよびヘルパーT細胞を誘導するペプチドを含む新規ペプチドワクチンである。本剤の投与により誘導されるCTLが、WT1タンパクを発現するがん細胞を攻撃することで、種々の血液がんおよび固形がんに対して治療効果を発揮することが期待される。また、幅広い患者への適応が可能な剤であり、かつCTLを誘導するペプチド単独よりも高い有効性が期待される。
- ・ 開発段階:
骨髄異形成症候群(MDS):フェーズⅠ/Ⅱ(国内)
固形がん・血液がん:フェーズⅠ(米国)

DSP-2230 神経障害性疼痛治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、電位依存性ナトリウムチャンネル Nav1.7 および Nav1.8 選択的阻害剤であり、そのチャンネルの発現分布から末梢性の神経障害性疼痛での有効性が期待される。また既存の神経障害性疼痛治療薬である非選択的ナトリウムチャンネル阻害薬およびカルシウムチャンネル阻害薬とは異なり、中枢神経や心臓系には作用しないため、高い安全性を有することが期待される。
- ・ 開発段階:フェーズⅠ(英国・米国)

WT2725 抗がん剤

- ・ 自社開発品(中外製薬株との共同研究)
- ・ 本剤は、WT1(Wilms' tumor gene 1)タンパク由来の治療用がんペプチドワクチンである。本剤の投与により誘導される WT1 特異的な細胞傷害性T細胞(CTL)が、WT1 タンパクを発現するがん細胞を攻撃することで、種々の血液がんおよび固形がんに対して治療効果を発揮することが期待される。
- ・ 開発段階:
固形がん、血液がん:フェーズ I (米国)
固形がん:フェーズ I (国内)

SEP-363856 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品(Sunovion 社)
- ・ 本剤は、新規な作用メカニズムの抗精神病薬であり、陽性症状に加えて既存の抗精神病薬が効果を示さない陰性症状モデルに対しても有効性を示す。非定型抗精神病薬と併用しても錐体外路障害様症状の増悪が認められないことから、統合失調症治療において高い有効性、優れた QOL の改善が期待される。
- ・ 開発段階:フェーズ I (米国)

DSP-3748 統合失調症に伴う認知機能障害(CIAS)治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、 $\alpha 7$ 型ニコチン性アセチルコリン受容体($\alpha 7$ nAChR)のポジティブ・アロステリック・モジュレーター(PAM)である。 $\alpha 7$ nAChRを介したアセチルコリン伝達を増強することによって、統合失調症に伴う認知機能障害(CIAS)に対する治療効果が期待される。本剤はPAMとして作用するため、従来のアゴニストと比較して脱感作を起こしにくく、より高い有効性が期待される。
- ・ 開発段階:フェーズ I (米国)

以上